

調査結果の概要及び主な特徴

「話すこと・聞くこと」について

- (A) 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話すことはよく定着しています。
- (B) 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることや、計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることはよく身に付いています。

「書くこと」について

- (A) 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることはおおむね定着しています。
- (B) 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることはおおむね身に付いていますが、正答率からみると全国平均をほんのわずかに下回っており、更に力を伸ばしたい事項です。
 

<「課題及び指導改善に向けて2」参照>

「読むこと」について

- (A) 目的に応じて必要な情報を捉えることはおおむね定着しています。
- (B) 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことはおおむね身に付いています。
- (A) 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることはおおむね定着していますが、正答率からみると全国平均をほんのわずかに下回っており、更に力を伸ばしたい事項です。
 

<「課題及び指導改善に向けて1」参照>

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- (A) 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことはよく定着しています。
- (A) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使うことはおおむね定着しています。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題A 4 (登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題)

(1) 課題が見られた問題について

物語を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文(「草がそよぎをとめ、草の穂波の向うに沈む夕日が、あたり一面を火の海にしている。’)が心に残った理由として、適切なものを選択する問題です。登場人物の心情について情景描写を基に捉える際に、心に残った文の中に出てきた「火の海」という言葉から選択肢の中の「海の激しさ」という言葉を選択した児童が約2割見られました。「火の海」を「いかりやくやしき」の比喩として捉えられず、言葉の類似性や言葉自体の表すイメージで選んでしまったことが一つの要因だと思われます。

4 登場人物の会話から、おたがいを感じる気持ちが伝わってくるから。

3 音を表す表現から、山の静けさと海の激しさが伝わってくるから。

2 景色や様子を表す表現から、コウタのいかりやくやしきが伝わってくるから。

1 登場人物の行動から、コウタのあわてている様子が伝わってくるから。

(問題)

中西さんは、特に心に残った文として――部を取り上げ、その理由について説明しようと考えています。理由として最も適切だと考えられるものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

4 中西さんは、武蔵野さんが書いた「くらやみの物語」を読み、心に残ったことについて説明することにしました。次の「物語の一部」をよく読んで、あとの「問い」に答えましょう。

(物語の一部)

■ 物語のこれまでのあらすじ  
 五年生の夏休みの終わりに、コウタは、カクローをよくめた製の仲間と花火大会を計画していた。お金を出し合って買った花火は、コウタの家の物置に入っていた。しかし、その花火は計画の当日にコウタの母親に見つかり、水につけられてしまふ。コウタは、そのことをカクローに伝え、カクローと自転車で仲間のもとに向かい、報告をする。そこでコウタは仲間一人に厳しくせめられてしまふ。

(武蔵野子「くらやみの物語」による)

- (小学校国語) 4 -

(2) 指導の改善・充実に向けて

問題で取り上げられた文を読むときに、その文が何を表しているのかを考えて読むことが大切です。物語を読むときには、登場人物の心情が暗示されている情景描写を探したり、その言葉から受ける印象について話し合ったりすることで、登場人物の心情を想像する力が身に付きます。また、言葉の比較などを通して、語彙を増やすことも、想像力豊かに文章を読むことにつながります。

2 調査問題B 2 (一) (目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題)

(1) 課題が見られた問題について

**かみかみあえ**



※「するめ」ニイカを平した食品

「紹介する文章」

「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。するめのはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

「おすすめする文章」

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちのの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。するめのはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいて、たまらないおいしさです。特におすすめしたい理由は、次の二つです。一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。六年一組で以前行ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きなこんだての上位三つに入っていました。六年一組では、「ツナマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。きっと、ほかの学級でも好きな人が多いと思います。二つ目の理由は、「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があることです。同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「かみかみあえ」の方が、よりむし歯を防ぐ効果があります。「かみかみあえ」は、おいしくて、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる「かみかみあえ」をぜひ、おうちのメニューの一つに加えてください。

1 疑問を提示し、読者が興味をもって読めるようにするため。  
 2 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。  
 3 具体的な例を多く挙げ、読者に納得してもらうため。  
 4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えてもらうため。

この問題では「自分の考えの中心を冒頭に位置付けることで、推薦する理由についての相手の理解が明確になるという効果があることを捉えること」が求められます。

【おすすめする文章】の冒頭（➡ の部分）には、星野さんが伝えたいことが書かれており、読者の理解を助けているため、選択肢2を選ぶことが正しい答えです。しかし、（➡ の部分）の中だけを手がかりに、「サラダやあえ物」という複数の具体例から、選択肢3を選んだと思われる児童が2割強見られました。また、これまで読んできた説明文には、冒頭に疑問を呈する文体が多かったことが、1割ほど選択肢1を選ぶ誤答につながった要因と考えられます。文中や問題文の一部に対して反応してしまい、全体を読み取れなかったことが根底にあると思われます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

文章を書くためにいくつもの情報を集め、メモを活用する際に、目的に応じて並べ替える力や取捨選択、要約する力が必要です。そのためには全体として何を一番伝えたいのかを考える中で事実や事柄を明確にすることはもちろん、「〇〇だから□□である」と、理由と結論を関係付けながら全体像を見通していることが大切です。普段からいろいろな物事に関心を持ち、書く場面だけでなく話す場面においても同様の活動を重ねることが、力を付けていくことにつながります。更に、国語の基礎である言葉を豊かにしていくことは、文章を正しく理解していくために必要です。多くの文章に触れることは、場や状況に合った言葉の選択ができるような力を付けることにつながると考えられます。